

よこはまユースレター

発行／公益財団法人よこはまユース
tel.045-662-3716 fax.045-664-6254
URL <http://yokohama-youth.jp/>
Eメール soumu@yokohama-youth.jp

次代を担う子ども・若者を豊かに育み、自立した「大人」として社会に送り出すことは、私たち大人が担う大切な役割です。しかし、現在、子ども・若者は、貧困や虐待、いじめなど様々なりスクや困難と隣り合わせの不安定な社会を生き抜くことを余儀なくされています。子ども・若者の「生き抜く力」を育むために—よこはまユースでは次のような事業を通して、青少年育成活動に取り組んでいます。



子ども若者エンパワメントセミナー

つながりの牢獄

— 青少年の問題行動から考える —

(7月21日)



インターネットを介したコミュニケーションの増加によって、子ども・若者世代を中心に、LINEや Twitter など SNS (ソーシャル・ネットワーク・サービス) をめぐるトラブルが増

えています。ネット上でのつながりは周囲からは把握しにくく、閉ざされた交友関係を発端としたいじめや非行、暴力につながる場合があります。こうした問題行動の背景には何があるのか。今年度のセミナーでは、筑波大学教授の土井隆義先生を招き、“つながり依存” “キャラ化” といったキーワードを切り口に、青少年を取り巻く現状と課題について、ご講演いただきました。

●“つながり依存” がもたらす問題

土井先生は、『現代の子ども・若者が陥りやすい“つながり依存”の背景にあるのは、自己肯定感の低さや自信のなさ。学校や学級など固定された人間関係の中で、互いを認め合うことで承認欲求を満たしている。限定された強い“絆”は、時として牢獄のように彼らを縛り付けてしまい、結果的にいじめや問題行動の拡大にもつながる。子ども・若者が自信や自己肯定感を持って、自立した大人として成長していくためには、固定した人間関係に依存しすぎることなく、人間関係の軸足を増やし、ゆるやかな架け橋のようなつながりを育むことが大切』であるとして、地域での見守りや多様な大人が関わることの重要性を説きました。

●広げよう、地域で青少年を見守る“目”

本講演には小中高生の保護者や教員、民生委員・児童委員など約 160 人が参加、「子どもに対する見方が変わった」「“ゆるい関係性の大人”として子どもたちに関わっていきたい」など、地域で青少年を見守る“目”を育み、日頃の関わりを振り返る機会となりました。

わくわく生活体験キャンプ (8月20～21日)

見て触れて感じる体験の減少は、子どもの成長に大きな影響を及ぼすと言われています。内閣府の調査では、体験機会の豊富な子どもは、そうでない子どもに比べて意欲や規範意識、学力が高いという結果が出ています。また、経済的な格差が子どもの体験機会の格差に結び付いているとも言われています。

本キャンプは、様々な理由で体験機会が限られている子ども向けに、炊事や洗濯などの生活体験やカヌー等の自然体験によって、子どもたちの“自信”や“社会性”を育むことを目的に実施しています。

今年は、横浜市内で寄り添い型学習等支援事業に参加する小中学生 13 人と支援団体スタッフ 15 人が参加。



初めて出会う仲間たちと過ごすキャンプは、野外でのカレーづくり、花火、カヌー、流しそうめんなど、五感で夏を感じるプログラム満載！集団活動は苦手だけど初対面の人とも仲良くなれた子、いつもはなかなか言えない「ありがとう」が言えた子…参加した子どもたちの成長ぶりが眩しい、真夏のキャンプになりました。

※本事業は当法人の特定寄附金により実施しています。

青少年育成寄附金募集事業

第55回 爆笑！濱っ子寄席

出演は柳家権太楼、三遊亭歌之介、柳家喬太郎、ケーシー高峰ほか。皆さまお誘いあわせの上、ご来場ください。

◆日 時／平成 27 年 11 月 13 日 (金)
開演 18 時～ 21 時

◆会 場／関内ホール 大ホール ※全席指定

◆チケット／S 席 3,500 円・A 席 2,500 円・B 席 1,000 円

10月1日(木) 10時 電話予約開始！

◆受付時間／月～土曜日 10 時～ 21 時

※休館日 (10/13・10/26)、日曜、祝日を除く

【お問合せ・ご予約】 tel. 045 - 662 - 3716

放課後キッズクラブ

高校生インターンシップ

港南台第三小・能見台小・本町小・岡村小放課後キッズクラブ

活動先を選んだ理由は「将来、先生になりたい」「母校だから」とそれぞれですが、共通しているのは「子どもが大好き」なこと。岡村小放課後キッズクラブで実習した横浜南陵高校3年の中島真帆さんは、「**配慮が必要な児童と一緒に過ごすことで、お互いの成長につながるという、スタッフのアドバイスが印象に残っています。**」



夏休み恒例「スイカ割り」 上矢部小放課後キッズクラブ (8月5日)



割って楽しい、食べておいしいスイカ割りは夏の人気プログラム。子どもたちのおいしそうなお顔をみて、夏を満喫！



横浜市青少年育成センター

親子1,000人が夏祭りを楽しみました！

「きずな★夏祭り～町内会祭りの裏側をウォッチング！～」

(横浜市町内会連合会・横浜市民局と共催／8月18・19日)

「町内会の仕事を学ぶ」をテーマに、かき氷やヨーヨーなどの屋台や、各区のマスコットキャラクターのぬり絵、缶バッチづくりなどを体験しました。今年も、ボランティアとして高校生・大学生のほか、放課後キッズクラブの子どもたちが大活躍！「**いらっしやいませー**」「**ありがとうございました**」と、大きな声で一生懸命活動する姿に、参加された保護者からも「頑張ってるね！」と声をかけられる場面も見られました。



「いらっしやいませー」「ありがとうございました」と、大きな声で一生懸命活動する姿に、参加された保護者からも「頑張ってるね！」と声をかけられる場面も見られました。

横浜市野島青少年研修センター

野島海岸の海浜清掃「オールクリーン野島ビーチ」
「大切な自然 守ろう！きれいにしよう！考えよう！」

(7月4日)

夏の暑さの中、ボランティア33人が参加。潮干狩りなどで、多くの子ども達が訪れる野島海岸ですが、瓶の破片や使用済みの注射器など危険な物も落ちています。



小学生の兄弟が、一生懸命にスコップでゴミをかき集めている姿は、とても頼もしく感じた光景でした。



横浜市青少年交流センター

野毛山が絶叫！！夏の風物詩「きもだめし大会」

(8月22日)

青少年委員が中心となり、1か月かけて、企画、会場レイアウト・施工まで、すべてを青少年ボランティアの手で作り上げました。出来上がった会場は、遊園地のお化け屋敷にも引けを取らない本格派！！あまりの怖さに、途中棄権者が続出。開館以来の名物イベントですが、閉館に伴い、今年が最後ということで、力が入りすぎてしまったようです。

きもだめしの“怖さ”も、青少年ボランティアの“熱い思い”も過去最高のイベントとなりました。



Thank you for your support.

ありがとうございました！

平成27年5月1日から平成27年7月31日まで

寄附金協力者（順不同、敬称略）

【団体名】 横浜商工会議所／中央集撰会／コーロ・アンダンテ／横浜開港祭シャボン玉イベント／西区子ども会育成連絡協議会／馬車道商店街協同組合／西区ジュニアリーダーズクラブ／神奈川県野球連盟／横浜市立新鶴見小学校PTA／横浜市健民少年団／泉区青少年指導員協議会／横浜市フォークダンス協会／（株）サンセルフ／（有）温冷堂／横浜南部食糧販売協同組合／横浜市立井土ヶ谷小学校PTA／横浜市子ども会連絡協議会／柴町内会／（株）平井印刷所／ボーイスカウト横浜市連合会／鶴見区子ども育成会連絡協議会／神奈川区青少年指導員協議会／（株）横浜アーチスト／（株）横浜レンタル

【個人名】 佐藤 邦彦／濱倉 公子／岩崎 紀夫／美藤 愛／眞鍋 明文／大塚 善一郎／関野 修一／横関 桂子／稲垣 公明／三橋 赫夫／内野 貴彦／和知 典夫／安部 萬里子／合田 加奈子／田島 一郎／成田 拓夫／益田 和昌／吉田 洋市／松本 清江／田中 美智子／泉妻 輝夫／田野井 一雄／佐藤 雅亮／中谷 忠宏／早川 雅子／瀧波 磨理江／岩田 聡／太田 京子／羽生田 博／笠原 光子／飯島 幹夫／賀谷 まゆみ／青柳 八重子／荒井 清／乾 英昭／岩倉 憲男／榎本 文夫／沖津 淑子／恩田 幸一／加藤 仁美／川ノ邊 直樹／酒井 勝一／坪内 一／中村 輝次／青山 幸一／大久保 簡子／畑 誠一／有路 由紀子／舟田 英一／中山 里美／藤島 栄子／下野坊 和子／田上 恭孝／平野 嘉昭／加藤 信郎／関根 利和／関根 ユキエ／光田 清隆／野村 啓子／工藤 春治／倉澤 達雄／深井 楠男／伊藤 敦子／片岡 喜久江／林 由美子／三池 明／吉原 明子／篠崎 浩子／安部 きみ子／大久保 則子／清田 邦男／武 久美子／横田 浩枝／雲井 耀一／板垣 憲明／三橋 ツネノ／澤出 吉秀／大澤 正之／田野井 伸泰／池田 ふみ子／浅野 俊博

◆ ユース賛助会費	111件	499,000円
◆ 特定寄附金	合計 56件	95,000円
（わくわく生活体験キャンプ）	36件	36,000円
（野島クリスマスキャンプ）	28件	28,000円
（ハートフルスペース）	31件	31,000円
◆ 一般寄附金	13件	36,461円



編集後記

猛暑が続いた夏。今年もそんな暑さに負けないような盛りだくさんの青少年向け事業を行ないました。夏休みが終わって、ひと回り成長した子どもたちの姿を見るのが私たちの原動力。秋以降もがんばります！